
罪物語

因幡白兔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

罪物語

【Nコード】

N2435BA

【作者名】

因幡白兔

【あらすじ】

僕が犯した罪の話を聞いてくれないか

高校最後の夏休み、阿良々木暦が犯した取り返しつかない罪とは！？

大切

な人犠牲無しじゃ救えない！！

こよみギルティ第巻話

僕は罪を犯した。取り返しがつかないほど大罪である。

物語の始まりとなる罪の話を話さずに物語は始まらない。だから少し聞いてもらいたい。

「僕、阿良々木暦は八月十五日、つまり今日は生涯で最もテンションが上がった日と言えるだろう。別に八九寺が前方に歩いてるのを見て襲ってしまおうとか考えてる訳じゃない。考えてるわけぞ」
「はっちくじいー！会いたかったぞー！」

道ばたで小学生といろんな意味でもみ合う高校生。痛々しい・・・

「な、なにをするんですか！！アルル木さん！」

「僕はフランス南部、ローヌ川下流にある観光都市じゃない！」

「よく分かりましたね。自分でもレベルの高いボケをした」
「今ボケって言ったな！？」

八九寺はテヘッと誤魔化し話を進める

「それはそうとよく分かりましたね、アルルなんて私もフランスにあるとは知りませんでしたよ」

「まあな、羽川と戦場ヶ原に毎日みっちり勉強を教えられたら嫌でも覚えるさ」

「確か留学する予定でしたね」

「進学な、羽川じゃあるまいしな」

とかなんとか言いながら目的地に付いたので惜しいが八九寺に別れを告げる

「じゃあな八九寺」

「また会えるといいですね」

八九寺の意味深発言に苦笑する

こよみギルティ第貳話（前書き）

p s pからですのでちまちなるのは仕様なので・・・
あと批評など受け付けてます！

こよみギルティ第弐話

危ない危ない。うつかりすると僕は八九寺との話に夢中になって通り過ぎてたかもしれない。ま、覚えていて時間にも遅れていないし上出来だ。

ここは民倉荘前。つまり僕の彼女、戦場ヶ原ひたぎの家の前である。僕は夏の殺人的な日差しから逃げる如くアパートの階段を上る。201号室の前で戦場ヶ原に声をかける。

「遅いわ、阿良々木くん。これだったらクマムシの移動速度の方が早いと思うわ。さ、入って頂戴」

声をかけさせず罵倒し有無を言わず部屋に入れる。僕の彼女はそんな女性だ。

「今度のデートは」

戦場ヶ原は唐突にそう言った。

相変わらずの平坦な無表情のまま。

「阿良々木くんがプランニングしなさい」

そして家庭教師まつさい中の時に僕が誘うと戦場ヶ原はあっさりOKを出した。これは少々、いやかなり吃驚した。確実に何か言われると思ったからだ。

そんな訳で家まで迎えに上がったのだがここまで言われると折れそうになる。

「じゃ、荷物は勿論全て阿良々木くんが持っていていてくれるわよね？」

「日米不平等条約よりも不平等だ！自分で持ってくれ！」
ちなみに僕と戦場ヶ原が持っているのはキャリーバッグ。
そして僕達のデートは大胆にも北海道に二泊である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2435ba/>

罪物語

2012年1月10日00時54分発行